

ふくしま県人会だより

第 15 号
平成 19 年 1 月
福島県人会
北海道連合会

新年のごあいさつ

会長 長谷川 顕



新年明けましておめでとうござ
います。

県人会員の皆様におかれまして
は、輝きに満ちた新春を迎えられ
ましたことと推察し、お慶びを申
し上げます。

昨年の北海道連合会総会は、佐
藤知事御夫妻をはじめ渡辺県議
議長御夫妻、会津若松市長菅家一
郎様の御臨席を賜り、苦小牧県人
会並びに会員皆様の御尽力によ

り、盛大かつ有意義な総会を開催
できましたことに敬意を表し、厚
くお礼を申し上げます。

母県では前知事の辞職騒動で一
時は県政も混乱を極めました
が、新知事誕生により落ち着きを取り
戻し、平穏な県政に戻られたと聞
いております。私達は今後とも母県
福島の発展を願い、北海道とふる
さと福島県の交流が一層活発にな
ることを期待しております。

偶然にも今年には母県訪問の年に
当たりますが、この機会をとらえ
母県の再発見に向いてみては如
何でしょうか。母県訪問も会員皆
様の高齢化により参加人員の減少
が顕著になっております。会員皆
様の交流を図る意味も込め、大勢
の参加をお願い致します。

未だ北海道は経済環境の展望も
開けず低迷が続いておりますが、
幸いにも昨年は北海道の米作は豊
作に恵まれ、明るい希望が開ける
気配が見えてきたのではないかと

期待を致しております。

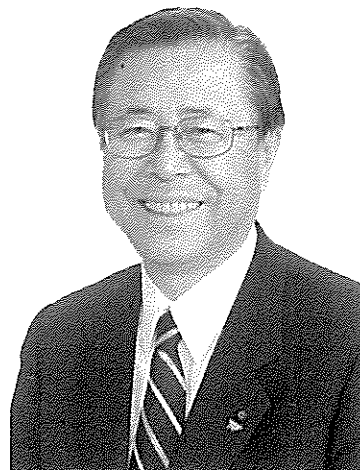
今年度の北海道連合会総会は、紋
別市において開催の予定です。
御承知のとおり、海の幸の豊富さ
と、花の賑わう季節と重なり、湧
別のチューリップ、滝上の芝桜等、
全道でも有数の観光地となってお
ります。ぜひ一度観光がてら、連
合会総会に出席されますことをお
願い致します。

最後になりましたが、会員皆様
の御繁栄と御健康を祈念し、連合
会総会で元氣な姿でお会いできま
すことを楽しみに新年の御挨拶と
致します。



新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 雄平



新しい年の初めに当たり、福
島県人会北海道連合会の皆様の
御多幸を心からお祈り申し上げ
ます。

貴県人会が、昭和四十八年の
設立以来、ますます発展を続け
られておりますことは、誠に御同
慶に堪えません。これもひとえに、
ふるさとを思う会員の皆様の熱意
の賜と深く敬意を表する次第であ
ります。また、皆様には、北海道
の地において、日ごろそれぞれの
分野で御活躍され、福島県の名を
大いに高められるとともに、本県
に対しましても格別のお力添えを
賜り、厚く御礼を申し上げます。
さて、昨年の県発注公共工事に

絡む一連の不祥事は、県政に対する大きな不信を招くことになりました。談合は決して許されるものではなく、県議会における議論や入札等制度検証委員会の意見を踏まえ、公正で透明性・競争性の高い入札制度への改革を早急に進め、その失われた信頼の回復に努めますとともに、私自身が現場に向き、皆さまの声を直接お聞きするなど、開かれた県政への取り組みを進め、「さわやかで明るい県政」を実現してまいります。

現在、雇用や教育、地域間の格差が広がり、私たちは豊かさを実感できずにいます。私はそうした格差を是正し、「賑わいとやすらぎのある豊かな福島県」を実現するため、次の三つの柱を県政の基本方針として、具体的な施策に取り組んでまいります。

第一は「地域の特色を生かした活力ある県づくり」です。産業の振興と雇用の確保のため、県内企業の技術力強化、人材育成をはじめ、豊かな自然や伝統、文化などの地域資源を生かし、定住・二地域居住の推進、優良企業の誘致、県産品の販路拡大、観光振興などに取り組み、地域の活性化を図ってまいります。また、農林水産業についても、担い手の育成や特産

品の育成などに力を入れてまいります。

第二は「安全・安心が支える住み心地の良い県づくり」です。くらしの安全・安心を確保するため、県立医科大学卒業生の県内定着率をさらに高めるなど医師の確保を図り、安心して医療を受けられる環境の整備に努めます。また、原子力政策については、国に対して安全・安心の確保を強く訴えるとともに、プルサーマル計画については、広く県民の皆様の御意見をお聴きしながら、慎重に対応してまいります。

第三は「人にも自然にも心暖かな、思いやりが息づく県づくり」です。仕事と育児が両立でき安心して子どもを生み育てられる環境づくり、高齢者・障がい者の福祉の充実、さらには、学校、家庭、社会が一体となり、知育、徳育、体育のバランスの取れた人間性豊かな子どもへの育成に努めてまいります。

私は、県民誰もが「生まれて良かった、育って良かった、住んで良かった」と思えるような日本一の福島県を築いていくため、一つの課題に誠心誠意、全力で取り組んでまいりますので、今後とも県政運営に対する一層の御支援

と御協力をお願い申し上げます。終わりに、福島県人会北海道連合会の限りない発展と、会員の皆様のご今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしました。新年のごあいさつといたします。

会員通信

「北海道連合会総会を終えて」

苦小牧福島県人会

会長 神野 修

一年前に開催地と準備担当に決まった北海道連合会総会を、当県人会設立以来のビッグな仕事として担当してみ、今まで開催地を引き受けて総会を開催されて来られた県人会の皆さんのご労苦が、はじめてわかりました。

いつかは私たち苦小牧県人会に、道連合会総会の開催地として指名されるものと、覚悟せねばと思っていたものの、実際に指名を受けての準備は大変なものでした。

会場の確保も、ホテル宿泊予約

も幸いのこと、ホテルに一年前の予約でしたから、ホテル最大のイベントホール確保ができました（知事日程変更で当日の会場は変更されました）。問題は宿泊関係で、ツイン・シングル各ルームは宿泊人員を想定しての予約ですが、予定人員の設定が肝要でした。しかしホテルの全面協力で当日に支障が出ないように確保できました。



次に折角来苦される皆さん方に、懇親会のお楽しみプログラムの編成でした。思考の末、会津白虎隊踊りの招聘をメインとして、ハワ

イフラダンス、三味線演奏、歌謡ショーの和洋折衷で、ディナーショー的ムードのひとつをプログラムしました。

当初予定した白虎隊踊りのうち、女踊りのクルーがカゼの為来られなくなり、男踊りのみになりました。フラダンスも三味線も歌謡歌手もプロの方に出演して貰い、皆さんにご満足いただけましたのと勝手ながら思っています。記念写真も天候に恵まれて、ベストコンディションでした。



この総会開催に当たって、道事務所の適切なアドバイスを頂き、

又、当県人会役員・会員の献身的なご協力を頂きました事に、心から感謝しますと共に、当県人会の歴史に大切な一ページを記すことができ、喜びに堪えません。

故郷の山々と川をもう一度

稚内福島県人会
門馬 勝彦

県人会のみなさま、はじめまして。私は稚内での総会の折、懇親会で司会をさせて頂きました門馬です。

今回の苫小牧市での総会は盛會裡に終了したしたことを、長谷川会長よりお聞きいたしました。おめでとございます。所用がございまして出席できなかったことを残念に思っております。次回の紋別市での総会には是非参加したいと思っております。懇親会で合唱した「故郷」のメロディーを聴くたびにみなさま方の元氣な姿が目に見え、浮かんでまいります。

私の故郷はいわき市錦町です。昭和十九年九月四日、七人兄弟姉妹の二男として生まれました。當時は第二次大戦中、「勝」と先祖の一字「彦」を貰い勝彦と名付けられました。

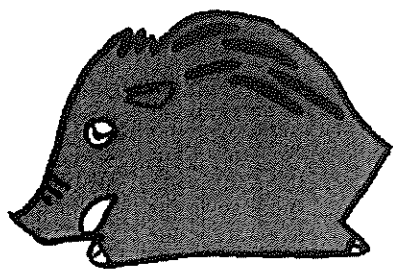
実家の窓からは阿武隈高地と鮫川を望むことができました。川は実家の傍を流れ三キロほど先の太平洋に注いでいます。上流に渡し船が設けられ、下流には木の橋が架かり、土手には河口まで桜並木が続いておりました。春には満開の桜が人々を楽しませてくれました。この川で泳いだり、釣りをしたり、蛭を捕ったり、また近くの里山で栗を拾ったり、目白等を捕ったりして少年時代を楽しく過ごしました。



その後、日本改造論とともにいわき市は新産業都市に指定され、港や河川敷が整備され工業団地が造成されました。

私は昭和四十年に故郷を後にしました。これまで何回か帰郷しましたが、その都度町の変化に驚かされました。

その後ほとんど帰郷することが無く、親の法事のため七年ほど前に帰郷しました。町は以前に増し賑わいを見せ、すでに木の橋は撤去され、その下流に大きなコンクリート橋が架かり、大型運送車等が間断なく行き来していました。その様変わり驚き、故郷の発展を誇ると同時に心の寂しさも感じました。しかし故郷の山々に変わりなく、川の流れは昔のまま緩やかに太平洋に注いでおりました。今年母県訪問の年。故郷の山々と川をもう一度見てみたいと思っております。



回顧録

浜中町福島県人会
相談役 伊藤 秀麻



私は昭和五十四年一月二十一日、第三回浜中町福島県人会の総会に参加し、会員として認められ、同年五月二十六日、帯広市で開催された第七回北海道連合会総会に出席しました。また、十月の第三回母県訪問に会員四名と共に福島県浜通りを軸として訪ねる機会がありました。

昭和五十六年には、東京に嫁いだ娘が出産のため帰郷していましたが、孫を送り届けた足で自分の生まれ故郷、会津若松に五十年ぶりで立ち寄ることができました。

以来、連合会総会、母県訪問と年次毎の連合会からの呼び掛けに参加してまいりました。中でも母県訪問では、県庁表敬訪問、国体うつくしま大会の観戦、飯坂から大鳥、東栗子トンネルから五色沼と喜多方市を観光し、我が故郷会津柳津に宿泊し、当時の横田事務所長と高橋前所長夫妻も参加され、盛大に座を盛り上げて頂きました。又、帰りには会津塗の桐下駄を参加した五十名に土産として頂いた事が、今でも脳裏から消えることはありません。



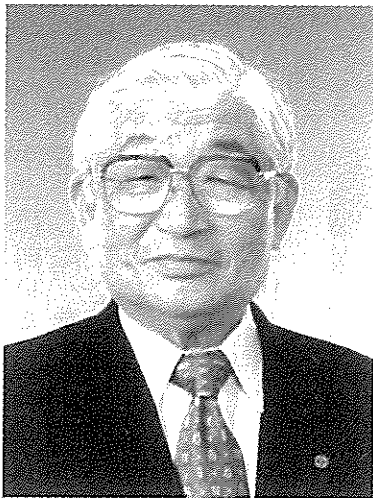
私が役員に選出されてからも、浜中町県人会では親睦の意味で毎年、花見の会や月見の会を実施しておりましたが、近年は道総会が例年五月ということの花見の会を中止し、多くの会員の方にこの総会に参加して頂き、全道の会員の方々との親睦を深めて頂くこととしております。

この他、昭和五十八年より近隣の県人会と持ち回りで観楓会を一泊で実施しております。

「会員通信」

紋別地区福島県人会

副会長 佐川 達人



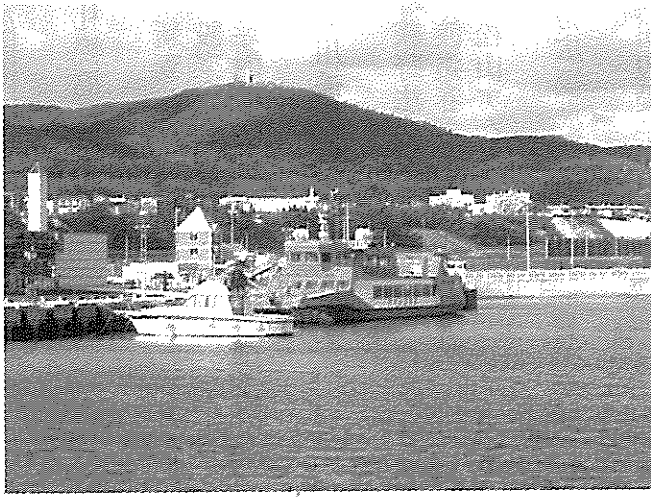
今、紋別の浜は鮭漁もほぼ終わり、県人会としても新入会員の加入もなくなり、特にお知らせすることはありませんが、気がかりなのは

来年五月に福島県人会北海道連合会総会を、紋別で行うことです。会結成以来三度目の全道大会をお引き受けすることになった訳ですが、第一回目（平成二年五月開催）の頃を思い出すと、兎に角張り切って、当時の紋別市長も県人会員でしたし、紋別の前は稚内が当番であったために、稚内に負けないとばかり、市役所を巻き込んだの大張り切りでありました。しかし、今回も勿論誠心誠意全力を尽くす覚悟ではありますが、時代が違います。会員も老化しているし、何かと不安が多く気が重いです。

実は、十一月二十三日のNHKテレビにて、歌謡チャリティーコンサートなるものが福島県郡山市から放映されました。勿論郡山からであるから会津磐梯山をはじめ、白虎隊、みだれ髪、塩屋岬等々、県の懐かしい歌が沢山歌われ、涙しながら聞きました。なぜ涙したかという、紋別で北海道総会をお引き受けした時には少なくとも、これくらいの歌は地元のコラスグループとしてご参加下さる皆様にご披露しなければならぬと思うから、その情景を目に浮かべてついつい涙してしまったのです。

我がコーラスグループ、大分声も囁れたと思うが、力一杯ご披露したいと思つています。ぜひ会員各位もそれなりに出し物を用意されてご参加ください、紋別大会を盛り上げていただきたく、心からお待ちいたしております。

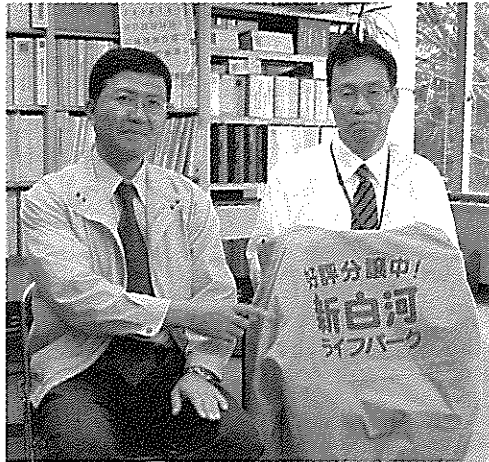
なお、新しい知事が選出されおめでとうございます。新知事には必ずこの紋別大会にご出席くださいますよう、一同心からお願い申し上げます。



○Bからのお便り

あつたか北海道に出会えて

第十一代次長 山口 広邦



太田敦夫さん(左)と一緒に

あけましておめでとうございます。早いもので、福島にもどつて六年目になります。

真駒内駅に降りて、札幌冬季オリンピックのモニユメントの前で、白い息を吐きながら、ここにこれから三年間住むことになるのかと思つたことが北海道生活の始まりでした。

直ぐに別海町県人会総会があり、招待を受けて、電車に何時間

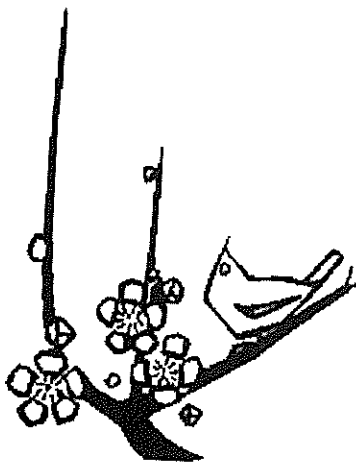
も揺られて出かけました。札幌は何度か訪れていました。道東は初めてでしたのでこれが北海道だと思ひました。その時、会長さんから「昔はたくさん野ウサギがいたのに少なくなつた。」という話を聞きました。なぜか今でもそれを覚えておられます。

その後、各地の県人会に出席させていただきました。皆さんから心温まる歓迎を受けて、楽しい思い出ばかりでした。皆様には心から感謝しております。

ところで、この「県人会だより」は私と少し関係があります。平成十二年度から発行されましたが、当時、ほかの県外事務所は県庁向けに仕事に役立つ情報を送つていました。しかし、同じようなものは嫌だな、二番煎じになるしと思ひ、県人会だよりを出すことに決めました。その思ひは、会員相互の情報交換を図ること、県人会の人たちがそれぞれの思ひを持ちながら北海道にやってきた。その当時のことを書いてほしいと思つたのがきっかけでした。私が、原稿を集めて、パソコンの得意な臨時職員の田中志津さんがレイアウトと打ち込みをやってようやく第一号を出しました。第十五号まで続いて嬉しいかぎりです。

スキーを覚えました。冬は、三年間毎週欠かさず朝里川温泉スキー場に通つていました。一年目は三級に合格し、二年目は二級に合格し、三年目に一級を受けました。が残念ながら落ちてしまいました。本当に楽しい三年間でした。ありがとうございます。

苫小牧港からフェリーに乗つて北海道を離れる時にだんだん遠くなる北の大地を感慨深く見つめたことが昨日のこのようです。今は、三カ所目の職場、企業局で事務所時代に一緒だった太田敦夫さんと楽しく働いています。今年は郷土訪問の年かと思ひます。再会を楽しみにしています。



新会員紹介

札幌福島県人会

新妻 淳 (にいつま じゅん) いわき市
設楽 廣志 (したらひろし) いわき市
坪内美弥子 (つばうちみやこ) 福島市

旭川福島県人会

荻野法男 (おぎのりお) いわき市
渡邊春吉 (わたなべはるきち) 保原町
松山アケミ (まつやまあけみ)

帯広福島県人会

田辺愛子 (たなべあいこ) 会津美里町



母県動向

本県舞台の映画が大ヒット

昨年九月、常磐炭鉱を舞台にした映画「フラガール」が公開され、全国で大ヒットしました。

かつて本県にも本州最大の常磐炭鉱がありました。石炭産業の衰退とともに、炭鉱は昭和四十年に閉山となりました。炭鉱閉山から、「常磐ハワイアンセンター」の誕生を支えた人々の物語を映画化したのが「フラガール」です。

常磐ハワイアンセンターは、常磐炭鉱時代に厄介者とされていた地下湧水の温泉を利用して、当時の行ってみたい外国ナンバーワンのハワイをイメージしたりゾート施設です。

現在は温泉やゴルフ場等も備えた大型レジャー施設スパリゾートハワイアンズとして、年間百四十万人を超える利用者で賑わっています。

また、会津出身の松江豊寿を主人公とした「バルトの楽園」も上映され、全国で大きな反響がありました。

県人会の皆さんも、ぜひ一度御覧になってください！

本県出身の選手が大活躍

箱根駅伝

第八十三回東京箱根間往復大学駅伝競走は、順天堂大学が6年ぶり十一度目の総合優勝を果たしました。二日間の平均視聴率は歴代五位の二十八%、瞬間最高視聴率は総合優勝した順天堂大学がゴールした直後の三十三・七%でした。絶好の駅伝日和の中、好記録が続出し、全国の駅伝ファンを魅了した大会でした。

レースは二年ぶりの往路優勝を狙った東海大学が先行しましたが、山登りの五区でエースの今井正人選手(原町高卒)が自らの区間記録を更新する快走を見せ、四分余の差を一気に逆転して往路優勝を果たし、総合優勝の大きな原動力となりました。今井選手の他にも、本県出身の選手が力走する姿が多数映し出され、福島県のイメージアップになったと思います。

また、元日に行われたニューイヤークラッシュ(第五十一回全日本実業団駅伝競走大会)は、中国電力が五区の佐藤敦之選手(会津高卒)

の活躍で三年ぶり二度目の優勝を果たしました。

トップと二分十七秒差の七位でタスキを受けた佐藤選手は、すさまじい追い上げでトップを奪い取り、優勝に大きく貢献しました。その神がかりな走りは、全国の視聴者に大きな感動を与えました。

編集後記

昨年は、北海道日本ハムファイターズが日本一になったほか、夏の甲子園で球史に残る決勝戦を戦った駒大苫小牧高校の活躍など、道民みんなが野球に勇気づけられた一年であった。

しかし、大雨をもたらした十月の低気圧被害、十一月の佐呂間町での竜巻被害、そして今年一月の低気圧被害と、自然の猛威を実感した年でもあった。

また、我が国は戦後最長の景気回復が続いていると言われるが、景気の牽引役になる個人消費の伸びにつながついていないという。一般国民にとって実感に乏しい景気回復である。

今年も「亥年」。今年こそ、県人会の皆様にとって良い年になりますように。